

公 共

第1問 次の文章を読み、以下の問に答えよ。

私たちはさまざまな a 欲求を持っている。しかし社会環境に適応しながら行動していくためには、自分の欲求を押し通すばかりというわけにはいかない。他者からの期待や社会的な規範に適合するよう、ある程度自分の欲求を修正する必要も生じる。そのため、欲求不満や b 葛藤を抱えることも多々ある。欲求不満や葛藤から生じる不安や苦痛を避けて自我を守るために、無意識のしくみがはたらく場合もある。オーストリアの精神分析学者 はこれを と呼んだ。 は建設的に働くこともあるが、不適切に働けば不適応行動につながることもある。悩みと向き合い、c 欲求不満などに耐える力を高めていくことも大切である。

問1 下線部 a に関して、アメリカの心理学者マズローは、欲求は5つの階層をなしており、低次の欲求が満たされることによって一つ上の欲求を持つようになるとする欲求階層説を唱えた。5つの欲求を下から順に並べると、どのような順番になるか答えよ。

- ア. 承認の欲求
- イ. 生理的欲求
- ウ. 所属と愛情の欲求
- エ. 自己実現の欲求
- オ. 安全の欲求

問2 下線部bに関して、葛藤は、A「接近—接近葛藤」、B「接近—回避葛藤」、C「回避—回避葛藤」の3つに分類される。ABCそれぞれの葛藤にあてはまるものを、以下のア～オから選び、その記号を答えよ。

- ア. 試験勉強はやりたくないけれど、試験で悪い点も取りたくない。
- イ. 試験で良い点を取りたいし、お小遣いも上げてほしい。
- ウ. 勉強を頑張って試験で良い点を取りたいけれど、遊びにも行きたい。
- エ. 部活動も頑張るし、試験勉強も頑張る。
- オ. 試験で良い点を取りたいけれど、試験勉強はしたくない。

問3 にあてはまる人物名を、以下のア～オから選び、その記号を答えよ。

- ア. ユング イ. アドラー ウ. ロジャーズ エ. フロイト
- オ. エリス

問4 にあてはまる言葉を答えよ。

問5 には様々なものがあるが、以下のア～ウはそれぞれ、A逃避、B抑圧、C合理化のどれにあてはまるか、記号で答えよ。

- ア. 試験勉強ができなかったのは家の手伝いをしないといけなかったからだ
と説明した。
- イ. 試験があることをすっかり忘れてしまった。
- ウ. 試験前に今までしていなかった部屋の掃除を突然始める。

問6 下線部cのことを何というか、答えよ。

第2問 次の文章を読み、以下の問に答えよ。

個人や法人といった私人どうしの関係について定めたものを私法という。私法には a 三つの原則がある。私法にもとづいて契約などの権利や義務を負うための資格を (1) といい、全ての人に平等に与えられる。ただし、 b 意思能力や行為能力が不十分とみなされる子どもや未成年者などは、契約を取り消しできるなどの c 保護を与える制度がある。また、近代私法の原則として、物の持ち主はその物を自由に扱うことができる。また、人は契約などの私的な関係を自由な意思に基づいて築き上げることができる。

個人は活動の自由を保障されているが、その結果は自ら引き受けなければならない。他人の故意または過失によって損害を受けた私人は、加害者に (2) を請求することができる。この場合、加害者に過失がなければ (2) を支払う責任はない。これを (3) の原則という。しかし、被害者が加害者の過失を立証しなくても加害者は原則として法的責任を負うという (4) を定めた特別法も存在する。

消費者は日常的に事業者から商品を買うなどの契約を結んで日々の消費生活を営んでいる。しかし、消費者は事業者に比べて取引の知識を十分に持つとは言えない (5) があるため、消費者の権利を保障する必要がある。2004年にはそれまでの消費者保護基本法が消費者基本法に改められ、2009年には消費者行政を一元化するために (6) が設置された。消費者法制には、事業者の虚偽の情報などによって結んだ契約を取り消したり、消費者に不当に不利な契約条項を無効にしたりする (7) や、事業者の製造物による被害者を救済するための (8) などがある。また、消費者支援の機関として、消費者からの相談受付や消費者教育を担う (9) などが設置されている。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 9 ）にあてはまる適切な語句を、それぞれ以下の語群から選び、その記号を答えよ。

- | | | |
|-------------|-------------|---------|
| ア. 製造物責任法 | イ. 判断能力 | ウ. 過失責任 |
| エ. 消費者不利の原則 | オ. 情報の非対称性 | カ. 保険金 |
| キ. 電子契約法 | ク. 国民生活センター | ケ. 権利能力 |
| コ. 公正取引委員会 | サ. 責任回避 | シ. 環境省 |
| ス. 無過失責任 | セ. 消費者保護法 | ソ. 損害賠償 |
| タ. 被害者救済法 | チ. 消費者庁 | ツ. 法テラス |
| テ. 消費者契約法 | | |

問2 下線部 a の三つの原則を全て答えよ。

問3 下線部 b の意思能力や行為能力に関する以下の文章について、正しいものに○、誤っているものに×をつけよ。

1. 病気のため意識がない人は意思能力がないため、契約しても無効となる。
2. 小学生未満の子どもは、意思能力はあるが行為能力がないため、契約を取り消すことができる。
3. 18歳以上の成年であっても、病気や加齢のために行為能力が乏しい人は、いかなる契約もすることができない。
4. 未成年者が親などの法定代理人の同意なく契約した場合、その契約を取り消すことができる。

問4 下線部cの保護を与える制度にあてはまるものを、以下の語群から**2つ**選び、その記号を答えよ。

- ア. 未成年者取消権
- イ. 消費者団体訴訟制度
- ウ. クーリング・オフ制度
- エ. 成年後見制度
- オ. トレーサビリティ制度

第3問 次の文章を読み、以下の問に答えよ。

生活に必要なものをすべて自国の中だけで生産することは難しい。自国に不足しているものは他国から買い、自国で容易に生産できるものは他国に売る。そのようにしてモノとカネのやりとりをするのが貿易である。

貿易が進む中でそれぞれの国が生産する製品は偏りを見せるようになる。例えばA国は自動車を生産して輸出するが、大麦はあまり生産せず、B国から輸入する。対してB国は大麦を生産して輸出するが、自動車はあまり生産せず、A国から輸入する。このように貿易によって（ 1 ）が進んでいく。得意な製品を輸出して、苦手な製品を輸入することで、貿易をする国の両方に利益がある、という、リカードによって提唱された理論を（ 2 ）という。

この理論によれば貿易をすればするほどお互いに利益は大きくなるので、貿易に関税などの制限を設けない（ 3 ）を拡大することが望ましいということになる。しかし現実には、A国内の大麦生産者、B国内の自動車製造業は外国からの安価な製品の輸入によって雇用が失われるなど打撃を受けることがある。そういった国内の産業を守るために関税など制限をかけた貿易のことを（ 4 ）という。（ 4 ）によっていずれかの国に不利益が生じた場合には対抗措置がとられるなどして、貿易摩擦が発生することもある。

国内産業の保護という点では必ずしも（ 3 ）が優れているとは言えない面もあるが、国全体として見た場合には（ 3 ）のもたらす利益は大きい。そこで、国際的なルールに従って（ 3 ）を推進するため、1995年には（ 5 ）が設立された。

国際貿易などによる国際的なお金や資産の出入りを国際収支という。国際収支はさらに（ 6 ）、（ 7 ）、資本移転等収支に分けられる。（ 6 ）は輸出入などによって生じた収入と支出を、（ 7 ）は外国に対する金融資産や負債の増減を表す。資本移転等収支は、無償支援や債務免除など、対価を受け取らない収支の状況を表している。

国家間のお金や資産のやり取りをする際にはそれぞれの国の通貨が使用される。通貨1単位あたりの価値は通貨によって異なるので、通貨同士を交換するた

めの交換比率を取り決める必要がある。日本の場合、第二次世界大戦後は1アメリカドルを360円と定めた（ 8 ）を採用していたが、1973年からは交換比率が市場の状況によって変化する（ 9 ）を採用している。貿易などの際の通貨の交換は現金ではなく、（ 10 ）を媒介し、書類やデータを用いた決済を行うことが多い。このような決済方法を（ 11 ）という。

（ 11 ）の交換比率は（ 9 ）によって変化することから、自国の通貨の価値が他国の通貨の価値に比べて上がったたり下がったりすることがある。例えば、1アメリカドルが100円だったものが、150円になった場合、アメリカドルに対する円の価値が（ 12 ）ことになり、別の言い方で（ 13 ）になったという。逆に1アメリカドルが80円になれば、円の価値が（ 14 ）ことになり、これを（ 15 ）になったという。

自国の通貨価値が外国通貨に比べて上がった場合、下がった場合それぞれにメリットとデメリットがあり、特に a 国際貿易における影響 が大きい。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 15 ）にあてはまる適切な語句を、それぞれ以下の語群から選び、その記号を答えよ。

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| ア. 円高 | イ. 円安 | ウ. 保護貿易 |
| エ. 世界貿易機関 | オ. 金融機関 | カ. 上がった |
| キ. 下がった | ク. 経常収支 | ケ. 金融収支 |
| コ. 固定相場制 | サ. 変動相場制 | シ. 比較生産費説 |
| ス. 自由貿易 | セ. 外国為替 | ソ. 国際分業 |

問2 下線部 a について、正しい説明を以下のア～エから1つ選び、その記号を答えよ。

ア. 外国通貨に対して円高のときには日本からその国へ輸出する企業にとっては有利になる。

イ. 外国通貨に対して円安の時にはその国から日本へ輸出する企業にとっては有利になる。

ウ. 外国通貨に対して円高のときにはその国からより安く商品を輸入することができる。

エ. 外国通貨に対して円安のときにはその国からより安く商品を輸入することができる。